

各送付資料の補足説明

■資料1 第6次上尾市総合計画策定方針（修正案）

○第1回上尾市総合計画審議会において、委員から以下①～③のようなご意見を頂戴したことを受け、検討した結果、資料1のとおり修正しました。

【ご意見の内容と反映結果】

①3つの視点を掲げるにあたり、一番初めの柱が「右肩下がり」というよりは、あるべき姿を掲げた方が良いのではないかと。

⇒順番を入れ替えました。

②「未来を見据え、将来の市民ニーズに対応する計画」の「対応」という言葉は、受動的なニュアンスが感じられるので、もっと能動的な言葉になると良いのではないかと。

⇒「市民ニーズに対応」するのではなく、「未来を見据え、時代の変化に適切に対応」とすることにより、能動的な表現にいたしました。

③総合計画は、市民も巻き込んだ計画になると思うので、「右肩下がりの時代に対応する・・・」の「対応」という言葉を使用するより、より市民も巻き込んだ言葉にすると良いのではないかと。

⇒「向き合って」という言葉を入れ、また、説明文箇所「市民とともに」という言葉を追加しました。なお、「(2) 持続可能なまちづくりと地域活性化の実現に向けた計画」にも、市民との連携を謳った内容を視点として掲げているところです。

■資料2 第6次上尾市総合計画の全体構造イメージ（案）

- 資料2に記載の「基本理念」、「将来都市像」については、市民会議等でご意見などを踏まえ、参考例としてとして掲げたものです。
- 参考例を踏まえ、審議会でもご意見を頂戴し、次回の審議会で固めていきたいと考えております。

基本構想 : まちづくりの基本的な理念と目指す姿、方向性の大筋を示すもの

基本理念 : 10年間共通のまちづくりに取り組むうえでの基本姿勢や視点
(現計画では、「協働」・「自立」・「共生」・「独創」)

将来都市像 : 10年後に目指す将来の都市の姿

(現計画では、「笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお」)

まちづくりの基本方向 : 将来都市像を達成するため、基本理念に沿って進める方向性

- 「基本理念」は、数は決めておりませんが、これからの時代に必要だと思われるものを3つ、4つ掲げたいと考えております。
- 「将来都市像」は、最終的には1つに絞りたいと考えております。
- まちづくりの基本方向「8持続可能な行政経営」は、まちづくりの基本方向1～7すべてに係ってくるものとして位置付けている。

■資料3－1 第6次上尾市総合計画前期基本計画 施策体系（案）

■資料3－2 第5次上尾市総合計画後期基本計画 施策体系

【施策の体系案】

- 今後10年先を見据えた課題等を抽出し、施策の体系案を作成。
- 現行の計画が5階層（大・中・小・細・細々項目）になっているものを3階層（大・中・小項目）とし、目的別にわかりやすく政策をまとめた。

【新体系案における新しい分野】

○施策2－2『学び・創造』

⇒高齢社会を見据え、施策の大項目の「人生が楽しめる」分野に生涯学習や文化・芸術分野を配置した。

○施策7－1－6『企業誘致』

⇒人口減少時代において、生産年齢人口の減少が見込まれ、それにより税収にも影響が出ることから、企業誘致は重要と考え配置。

○施策7－2『地域資源』

⇒『1 魅力の発信』は、現行計画の「観光」と「文化財」などの資源を発信していくことを想定。

また、「3 人の交流・育成」は、国が総合戦略で「人材の掘り起こし、育成、活躍の支援」を謳っており、人材も「地域資源」としてとらえ分類した。

○施策8－2－2『外部資源やIoTの活用』

⇒「外部資源」は民間活用や大学等との協働などを想定したもの。

また、「IoT」は「society5.0」などを想定したものであり、行政運営において、近い将来を見据えた分野。

■その他

○第1回上尾市総合計画審議会において、委員から以下①～⑤のご意見を頂戴した
ことについての結果のご報告。

①外国人の動向は押さえておいた方がよいのではないか。

【別添資料「上尾市の日本人と外国人からみる人口動態【H29-30】【H30-31】」参照】
〈H29-30〉

- ・ H29-30 データからすると、上尾市全体の人口としては、388人の増加。
- ・ 日本人だけでは、51人の増加。
- ・ 外国人だけでは、337人の増加。

〈H30-31〉

- ・ H30-31 データからすると、上尾市全体の人口としては、39人の増加。
- ・ ただし、日本人だけでは、▲239人。
- ・ 外国人だけでは、278人の増加となっている。

②市民会議で使用した有配偶率と合計特殊出生率をプロットした資料の参考に
提供して欲しい。

別添資料「合計特殊出生率」及び「若年層有配偶率×合計特殊出生率」をご参照く
ださい。

③人口推計についての市の考え方をまとめておくこと

【人口推計の市の考え方】

- 「将来目指すべき人口」としていた文言が少し強い表現になっていたため、「将来展望推計人口」に修正。
 - 2045年に出生率「2.07」を希望する数値として算出していくことについては、
変更なし。（国と同様）
 - そうすると、次期総合計画の計画期間終了年の2030年には出生率は「1.77」に
なるが、それを目標に計画を検討したい。
- ※将来展望推計人口については、「上尾市地域創生総合戦略審議会」で先んじて議論してい
きます。（4月開催予定）

④将来展望推計人口を提示する理由を示してはどうか。

【理由】

- 今後10年20年後先を見た時、人口は減少に転じる。
- 特に、年少人口減少に伴う生産年齢人口の減少が見込まれる。
- 生産年齢人口が減少すると税収にも大きな影響が出る。
- 総合計画は今後10年間の計画であり、上記のようなことを踏まえた上で、今後の行政サービスの在り方や、人口規模に応じた公共施設・インフラ等の整備などを考慮した計画とする必要がある。

⑤社人研の将来推計人口のデータにおいて、ある年にたまたま異常値が出てしまったものを反映しデータが作られていないか、データの信ぴょう性を確認する必要があると思う。

【確認の結果】

- 社人研の推計人口データを作成するうえでの計測年に大きな異常値は認められないため、社人研のデータを使用することは問題ないと判断しました。

【参考：社人研将来推計人口の算出方法】

生残率：平成22（2010）年及び平成27年（2015）年の生命表（厚生労働省）を使用。
地域により較差が大きくなる60歳代については、平成12（2000）～22（2010）年の生命表も考慮し算出。

移動率：平成22（2010）～27年（2015）年に観察された地域別人口動向が2040～2045年まで継続すると仮定し算出。
移動率が平成17（2005）～12年（2010）年以前に観測された移動率から大きく乖離した場合は、過去の趨勢等から算出。